

滝沢市 I P U イノベーションパーク

運営計画2024

令和6年3月

## 目 次

1.	背景及び計画策定の趣旨	2 P
2.	パークの概要	2～4 P
3.	現 状	5～10 P
4.	運営計画 2020 の進捗評価	11～12 P
5.	現状の総括と今後の課題	13 P
6.	新たな運営計画	14～16 P

## 1 背景及び計画策定の趣旨

滝沢市IPUイノベーションパーク（以下「パーク」という。）は、岩手県立大学（以下、「県立大学」という。）西澤潤一初代学長が提唱した「門前町構想」及びその後策定された「盛岡北部学園都市形成ビジョン」を端緒に、県立大学のポテンシャルを生かした、地域産業の開発力や競争力を支えるIT開発拠点の形成を目指して、滝沢市、県立大学及び岩手県（以下、「県」という。）の3者が共同で整備・運営を進めてきた。

IT関連企業の誘致や産学官連携による研究開発の支援などの取組を進めてきた結果、集積形成の歩みは着実に進捗し、現在ではIT関連企業の一大大集積地として定着している。一方で、近年の技術革新や社会経済環境の変化、新たな地域課題等を踏まえ、パークがさらに機能を高め、所期の目的の実現に繋げていくには、新たな目標・戦略に基づくハード・ソフト両面でのさらなる取組が必要とされている。

今後5年間にわたり、関係者が一体となって取り組んでいく目標及び戦略を示すものとして、本運営計画を策定する。

## 2 パークの概要

### (1) 整備経過

- 滝沢市が中心となり、県及び県立大学と連携しながらIT関連企業の集積機能の形成に向けてパーク整備を進めてきた。

H21. 3	滝沢市 IPU イノベーションパーク整備計画を策定
H21. 4	滝沢市 IPU イノベーションセンターの開所
H22. 11	滝沢市が県からパーク用地（約3ha）を取得
H23. 4	いわてものづくりソフトウェア融合テクノロジーセンター（i-MOS）の開所
H24. 8	企業立地区画の分譲開始
H26. 5	滝沢市 IPU 第2イノベーションセンターの開所
H29. 3	滝沢市 IPU イノベーションパーク運営計画を策定
R 2. 3	滝沢市 IPU イノベーションパーク運営計画2020を策定

### (2) 土地利用概況

- 当初、貸し工房用地としていた3区画（次項図の①②③）を、平成30年度に企業立地区画へと変更したことから、企業立地区画は計9区画
- 現時点で未売却の区画は3区画。

総面積	約3ha
構成	①共用施設区画（約7,600㎡） 県立大学地域連携棟（i-MOS） イノベーションセンター（第1、第2） ②企業立地区画（約16,000㎡） 9区画 ※6区画+貸し工房用区画（当初）3区画 ③その他 道路、緑地など



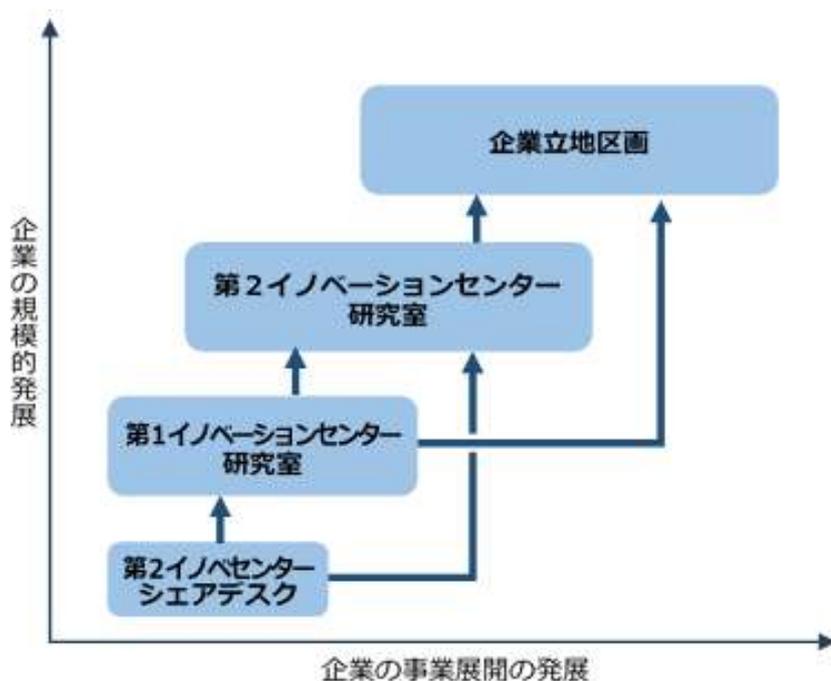
### (3) 施設概要

- 企業の入居スペースとともに、研究・交流等のスペースが備えられ、大学や市の職員等も常駐。
- 当初は貸し工房5棟の建設を構想していたが、その後のIPU第2イノベーションセンターの建設及び貸し工房用地の企業立地区画への変更等の環境変化の下、現時点までに建設しておらず、計画も無い状況
- 整備計画に掲げた9年間の入居期限及び3年毎の入居料改定については、現在は撤廃している。

名称	機能	施設概要
いわてものづくりソフトウェア融合テクノロジーセンター(i-MOS)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ものづくりとソフトウェアの融合によるイノベーション創出を図るために整備</li> <li>• 県立大学研究・地域連携本部の教職員により運営</li> <li>• 多様な人材育成を目的として、高度技術者養成講座等を開催</li> </ul>	H23年9月開所 面積：2175.02 m <sup>2</sup> 構造：鉄筋造2階建て 研究室：18室 共有施設：事務室、システム実習室、Fab室、プレゼンテーション室、相談室、応接室、高度組込みソフトウェア開発技術者教育システム ほか
IPU イノベーションセンター	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 成長初期段階のIT関連企業向け貸研究室</li> <li>• 入居条件として県立大学との連携を掲げている。</li> </ul>	H21年4月開所 面積：1,075.16 m <sup>2</sup> 構造：鉄筋造2階建て 研究室：12室 共有施設：会議室（2室）
IPU 第2イノベーションセンター	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 第1イノベよりも一回り広いIT関連企業向け貸研究室であり入居条件として事業・雇用の拡大を掲げている。</li> <li>• 創業間もないIT事業者等向けのシェアデスクも設置</li> <li>• 事務室に等滝沢市職員が常駐して入居企業をサポート</li> </ul>	H26年5月開所 面積：1,269.85 m <sup>2</sup> 構造：鉄筋造平屋 研究室：9室 シェアデスク：8デスク 共有施設：会議室（4室）、多目的ホール、休憩室、シャワー室、事務室

(4) 各施設及び区画の機能

- ・パーク内の各施設及び区画は、企業が立地目的や規模・事業展開の発展に応じて段階的に活用できるように、多様な機能・空間で構成。



滝沢市 IPU イノベーションセンター見取り図



滝沢市 IPU 第2イノベーションセンター見取り図



3 現状

(1) 集積形成

・計27社(令和6年3月時点)のIT関連企業が入居・立地して、様々な事業を展開している。

ア 立地・入居状況

シェアデスク

企業名	研究室	本社所在地	入居時期	事業概要
㈱環境アシスト	A	滝沢市	H30.2	低濃度 PCB 廃棄物の運搬、処理
㈱エー・アール・シー	B	東京都	R3.7	情報通信業
㈱カモシカ	C	滝沢市	R4.4	WEB制作
㈱イノベーションラボ岩手	D	盛岡市	R3.7	人材育成・起業家コンサルティング
アーティサン㈱	E	東京都	R1.12	法人向けコンサルシステム開発
(合) エルエーサイエンス・ラボ	F	東京都	R3.9	各種 IoT センサー設計開発
㈱オズ	G	盛岡市	H26.5	映像の企画・制作等
I P Uシェアデスク	H	(県立大学)	R3.6	大学発ベンチャー企業 Defios㈱が活用

IPUイノベーションセンター

企業名	研究室	本社所在地	入居時期	事業概要
滝沢ロボティクス(合)	101	滝沢市	R5.6	ロボット・研究開発・製造及び販売
㈱ワイ・デー・ケー	102	東京都	H21.5	伝送通信制御機器
㈱ハルシステム	103	東京都	R2.1	業務系ソフトウェア開発
OpenUp ラボ滝沢 (㈱ビ・ネットワーク・テクノロジーズ)	105	東京都	R2.10	IT人材派遣システムの開発及び改修
TOTALMASTERS㈱	106	三重県	H31.1	ICT機械施工に関わるシステム開発
ぴたデジ㈱	201	滝沢市	R1.7	一般企業デジタル導入支援サービス
㈱イイガ	203	東京都	H25.9	データベースシステム開発等
(有)エースソフト	204	盛岡市	H23.3	業務システムの設計、開発、保守

IPU第2イノベーションセンター

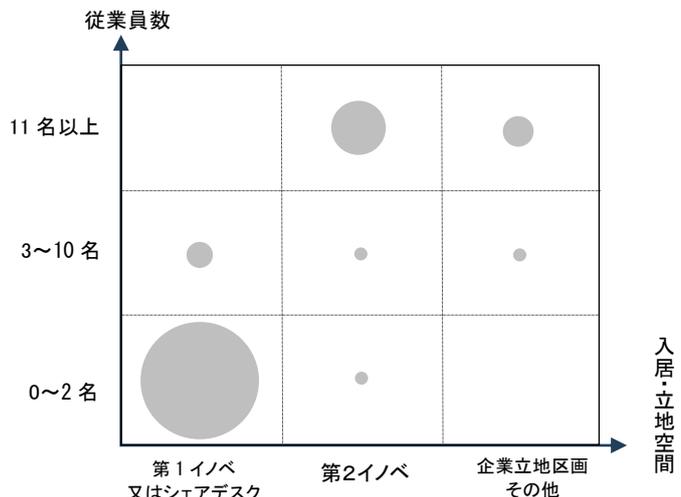
企業名	研究室	本社所在地	入居時期	事業概要
㈱ビーぷる	2-1, (206)	東京都	H23.5	システムの設計、開発、Web制作
岩手イノベーション・テクノロジー(株)	2-2, 2-7	滝沢市	H21.7	業務システムの設計、保守、管理
東京システムズ㈱	2-3	東京都	H27.7	流通、Webソフトウェア等の開発
㈱ヴェス	2-4, 2-5 (202)	東京都	H25.8	第三者検証業務
㈱サステナ	2-6, (104)	東京都	H29.10	ネットワーク構築・保守運用等
㈱フォーラムエイト	2-8	東京都	H30.9	スマートフォンアプリ、ゲームソフト開発
㈱クロスリンクシステムズ	2-9	滝沢市	H30.7	道路監視システム管理等

\*入居時期は第1、第2、シェアデスクにかかわらずイノベーションセンターへ入居した月。

企業立地区画

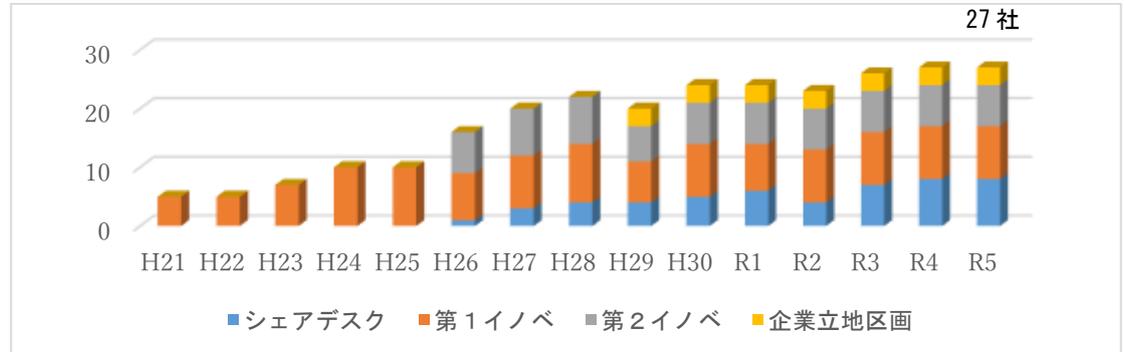
企業名	区画	本社所在地	立地調印	事業概要
㈱アルチザネットワークス	C、D	東京都	H28.5	通信計測機の製造・テスト
㈱テムテック研究所	①	東京都	H31.1	センシングと自動化等
㈱ゴーイングドットコム	②③	東京都	H31.3	端末向けアプリの設計・開発
㈱東北制御設計	F	滝沢市	R3.4	制御盤などのPLC(プログラマブル)

入居・立地空間と従業員数の分布



## 活動企業数の推移

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
シェアデスク	0	0	0	0	0	1	3	4	4	5	6	6	6	8	8
第1イノベ	5	5	7	10	10	8	9	10	7	9	8	8	9	8	8
第2イノベ	0	0	0	0	0	7	8	8	6	7	7	8	7	7	7
企業立地区画	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	3	3	4	4	4



## 入退去者の推移

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
入居企業	6	2	2	3	3	8	6	3	2	6	3	1	4	0	1
退去企業	0	2	0	0	3	2	2	1	5	1	4	1	0	1	1

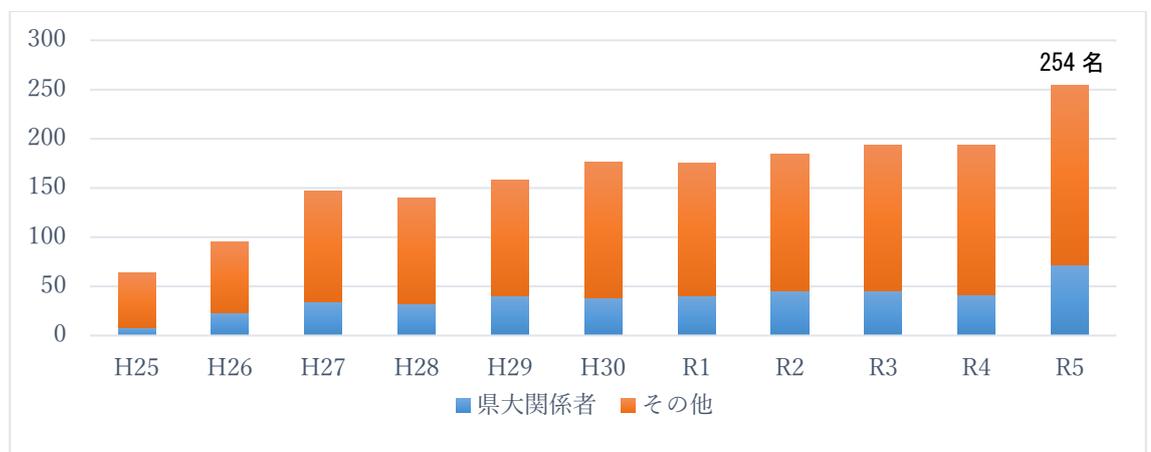
## イ 雇用の状況

従業員の内訳 (総人数：254名 令和5年10月1日現在)

	正社員		派遣・期限付		パートタイム		アルバイト		合計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
県立大学卒業生、在学中	38	7	4	0	0	0	18	0	60	7
県立大学以外	99	32	20	10	7	9	4	1	130	47
合計	137	39	24	10	7	9	22	6	190	64

## 従業員数の推移

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
県立大学関係者	-	8	23	34	32	40	38	40	46	46	41	72
その他	-	56	72	113	108	118	138	135	138	147	152	182
合計	18	64	95	147	140	158	176	175	184	193	193	254



## 企業による雇用者数変化の傾向

従業員の増減 (入居比)	企業数	備考
不変	17	IPUイノベ入居企業の割合が高い
増加	10	IPU第2イノベ入居企業・企業立地区画進出企業の割合が高い

## ウ 企業属性

### 業種

業種	企業数
ソフトウェア事業	16社
I Tを活用したハードウェア事業	5社
通信・ネットワーク事業	4社
その他（人材育成等）	2社

### 従業員

従業員規模	企業数
1名未満	11社
1～5名	7社
6～10名	2社
11～20名	2社
21～30名	3社
31名以上	2社

### 本社所在地

本社所在地	企業数
東京都	15社
岩手県	11社
その他	1社

### 売上高

売上高	企業数
100億円以上	2社
10億円以上100億円未満	5社
1億円以上10億円未満	11社
1,000万円以上1億円未満	3社
1,000万円未満	1社

\*シェアデスク入居の4社は除くもの

## エ 企業成長の状況

貸研究室から企業立地区画進出を果たした3社の実績を以下に示す。

### (株)アルチザネットワークス

活動履歴	雇用者数	売上高
H28 第1イノベ → H29 立地区画 (R2 立地区画内で拡張)	H28 1名 → R5 22名 (うち県立大学関係者は11名)	46%増（入居時比）

### (株)テムテック研究所

活動履歴	雇用者の変遷	売上高の変遷
H28 第1イノベ → H31 立地区画	H28 2名 → R5 24名 (うち県立大学関係者が3名)	105%増（入居時比）

### (株)東北制御設計

活動履歴	雇用者の変遷	売上高の変遷
H27 第1イノベ → R4 立地区画	H27 5名 → R5 19名 (うち県立大学関係者は0名)	5%増（入居時比）

## (2) 集積活用

### ア 共同研究

入居企業の技術開発等を支援するため、県立大学の研究シーズとのマッチングを行うとともに県立大学や滝沢市の支援制度により、入居企業と県立大学との共同研究を促進している。

#### パーク入居企業の産学官共同研究(新規)実績

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	計
県立大学との共同研究	2	5	4	1	3	3	5	1	2	2	2	2	1	3	35
滝沢市産学共同研究事業費補助事業	2	1	2	1	1	1	2	1	2	0	2	2	1	2	20
滝沢市共同研究事業	1	2	2	1	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	10

※ 滝沢市産学共同研究事業費補助事業の件数は、県立大学との共同研究件数の内数

### イ 連携・交流

入居企業の研究開発の促進や取引拡大、人材の育成確保などを支援するため、大学や試験研究機関との産学官交流や異業種企業等との交流、学生との交流、小中学校など地域との交流を積極的に実施している。

#### ① 産官学の連携・交流

取組	概要
滝沢市IPUイノベーションフォーラム	滝沢市が多様なテーマでセミナーを開催し、産学官や異業種企業等との連携・交流の促進を図っている。
コンバージェンス@いわてイノベ (R2～R5)	異業種分野が融合した新サービスや新技術の創造を目指して、県立大学が、パーク入居企業のほか幅広い分野の参加者を集めたワークショップ等を開催
滝沢イノベーションチャレンジ (R2～R4)	パーク入居企業等と県内大学生が連携してワークショップでアイデアをシェアしてチームを作り、滝沢を良くするプロジェクトを推進
産学公連携コーディネーターによるマッチング支援	県立大学研究・地域連携室に所属するコーディネーターのマッチング支援により産学官連携の研究開発事業創出を促進

#### ② 地域との連携・交流

取組	概要
プログラミング実習教室	県立大学が近隣の中学校のクラブ活動を支援。東京三鷹で開催される「中高生国際Rubyプログラミングコンテスト」で最優秀賞を受賞するなど着実な成果につながっている。
プログラミング体験イベント	滝沢市が将来のソフトウェア開発を担う小学生を対象に、子どもでも扱えるプログラミング体験イベントを開催
CoderDojo滝沢	子どもたちが自由にプログラミング学習できるコーディング道場がNPO法人により定期的に開催されている。
市内小中学生向けロボット体験イベント	滝沢市が小中学生を対象に、パーク企業の事業紹介等を通じて、働く場としてのパークを周知
県内高校生等向けパーク企業の見学会	県がパーク企業と連携して、高校生、保護者、教員向けに企業見学会を開催して、働く場としてのパークを周知

### ウ 人材育成

取組	概要
高度技術者養成講習会	県立大学が県及びいわて組込みシステムコンソーシアムと連携して、i-MOSにおいて人材育成事業を推進
課題解決型プロジェクト演習 (PBL)	パーク企業がソフトウェア情報学部の講座に参画することで、産学連携した人材育成を図っている。
ETロボコン大会	県が事務局を務める組込みシステム分野の競技大会を通じて、将来のソフトウェア開発を担う人材育成を促進

#### NPO 法人・県立大学・滝沢市による若者人材の育成・定着に関する連携協定

パーク企業が中心となり設立したNPO法人イノベブリッジたきざわは、令和5年2月に滝沢市及び県立大学との三者による連携協定を締結した。今後は、三者が連携して、若者人材の育成・定着の推進を図り、学生を始めとした若者の活躍の場を創出するとともに、地域の中小企業等の人材確保の推進に寄与する取組が推進されることが期待される。

## エ 県立大学発ベンチャー企業の状況

県立大学は令和3年度からシェアデスクの一角を県立大学発ベンチャー企業等が活動する場として提供しており、これまでに大学発ベンチャー企業2社が活動している。

企業名	事業概要
滝沢ロボティクス(合)	ロボット・研究開発・製造及び販売
(株)Defios	IOT/エッジコンピューティングの開発

## オ 集積活用の総括

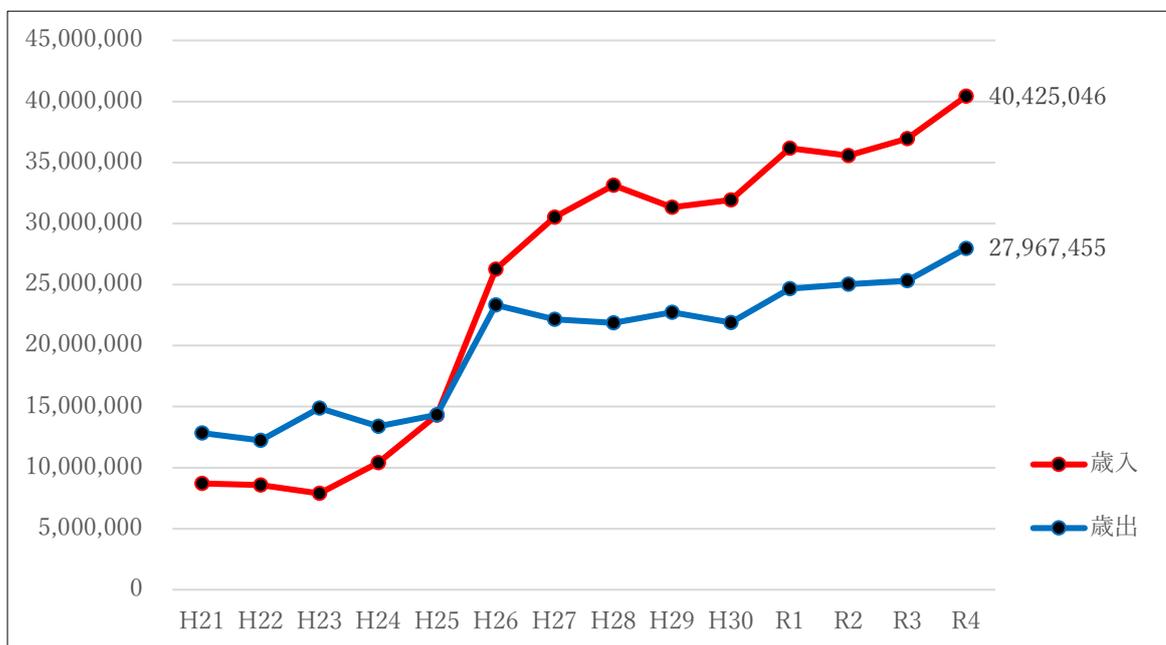
企業がこれまで県立大学と連携して取り組んだ実績は以下の通り。

連携項目	実績企業数	実績を有する企業の割合
共同研究	12社	44.4%
人材育成	20社	74.1%

## (3) その他

### ア センター運営収支の推移

平成26年度にIPU第2イノベーションセンターが稼働して以来、安定的に歳入超過を継続している。



### イ IT関連産業に係る総生産の推移 岩手県

単位: 百万円

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
全産業	4,107,932	4,328,679	4,561,325	4,652,936	4,679,511	4,731,438	4,864,349	4,913,356	4,856,262	4,747,426
IT関連産業	112,131	113,060	116,861	116,067	118,998	120,372	118,031	119,583	118,182	121,626
ITの割合	2.7%	2.6%	2.6%	2.5%	2.5%	2.5%	2.4%	2.4%	2.4%	2.6%

出展: 令和2年度市町村民経済計算(情報通信産業)

### 滝沢市

単位: 百万円

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
全産業	127,087	120,037	123,130	124,198	134,512	130,112	126,087	129,661	133,269	144,204
IT関連産業	3,234	3,307	3,474	3,431	3,605	3,798	3,765	3,854	3,820	4,100
ITの割合	2.5%	2.8%	2.8%	2.8%	2.7%	2.9%	3.0%	3.0%	2.9%	2.8%

出展: 令和2年度市町村民経済計算(情報通信産業)

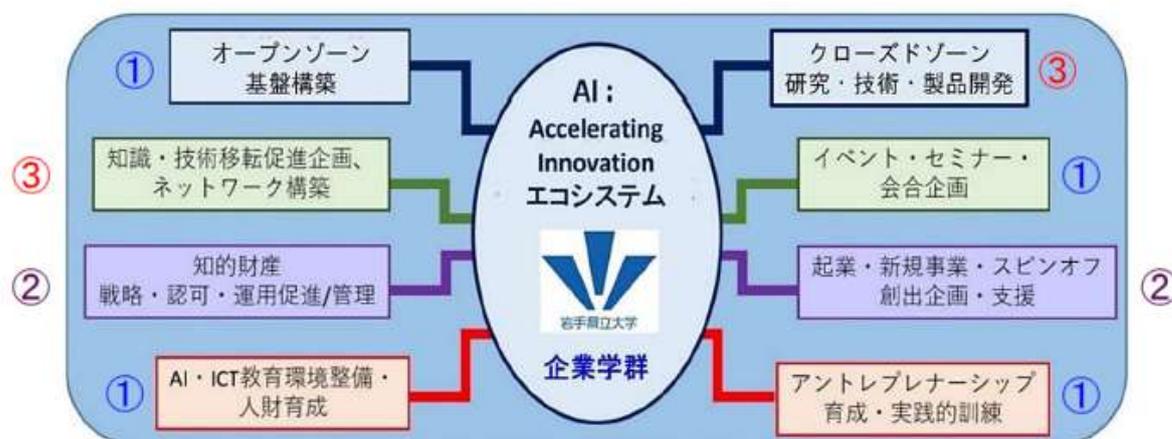
## ウ 県立大学企業学群構想

県立大学は、パーク企業を学部・研究科と同等の「企業学群」と捉え、情報の共有や相互の信頼・協調関係を促す集積拠点を実現し、産学官連携による事業共創やイノベーション創出、人材育成を目指す「企業学群構想」を推進する取組を令和5年度から本格的に開始した。

### 【企業学群の機能】

- ・学部・学群の持つ可能な情報の共有
- ・学群学生(企業従業員)に学部・大学院教育の機会を提供し、ミニ、マイクロ等の学位制度を導入
- ・学群教員(企業の経営陣)による学部学生への教育や技術訓練の提供
- ・研究会、セミナー、課外活動等への相互乗り入れ
- ・実質的な学生インターンシップ制の構築
- ・産学官連携による知識・技術共創を柔軟性・多様性・発展性を重視して、有効かつ強力に運用するために、知識・共創エコシステムを構築

### 知識・技術共創エコシステム



※図中の数字①～③は、優先度の順位を示す。

#### 4 運営計画 2020 の進捗評価

##### (1) 運営計画 2020 の概要

運営計画 2020 においては、入居・立地対象企業は I C T 企業に限定せず、一定の条件の下、「ものづくり、医療・福祉、農林水産業等の幅広い産業」に拡大している。

策定期間	令和 2 年 3 月	
期間	令和 2 年度から 11 年度までの 10 年間（5 年を目途に見直す）	
基本的考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 滝沢市、県立大学及び県が関係機関とも連携しながら取組を進めてきた結果、地域の一大 I T 開発拠点となっている</li> <li>・ 実践的な技術開発力を備えた高度技術者の育成、県立大学との新たな研究開発への取組などについて、産学官の共同研究を進め、生産性や付加価値向上など地域産業の競争力強化を図る拠点としての重要性を高めていく必要がある</li> </ul>	
入居・立地対象企業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ソフトウェア技術を中心とした I C T 関連産業で、県立大学との産学連携や、パークや県内に立地する企業との連携等により、新たなビジネスを展開しようとする企業</li> <li>・ 生産性向上などの競争力強化やシステム・サービスの高度化などの開発に県立大学やパーク入居企業などと連携して取り組もうとするものづくり企業をはじめ、I C T を活用した医療・福祉、環境、農林水産など幅広い産業</li> </ul>	
全体目標	集積形成	入居企業によるパーク内への移転や拡大などによる 2 次展開を進めるとともに、県立大学や入居企業などと連携した開発に取り組む産業からの新規立地を促進し、企業立地区画への入居を促進する。
	集積活用	パークの一層の利活用が図られ相乗効果が生み出されるよう、産学官民との連携・交流を促進するとともに、技術人材の育成・確保等の支援や産学官連携や企業間連携などによる研究開発プロジェクトを形成し持続的なイノベーションの創出を目指す。
運営目標	・ 短期（概ね 5 年）、中長期（概ね 10 年）、長期（10 年以上）毎に設定	

##### (2) 集積形成に係る進捗評価

パークは県内有数の I T 産業集積地に成長しており、研究室の入居率の高さや企業立地区画への立地進展にみられるように、全体的に順調に進捗していると評価できる。

		内容・状況				
目標	短期	企業の実践的な開発と連携した県立大学の人材教育や研究開発により、パーク内の特徴や魅力を強化する。				
	中長期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 産学官が連携した取組により、パークへのさらなる集積が図られ、I C T 関連産業の拠点化を図る。</li> <li>・ 県立大学卒業生の就職をはじめとした、地元の重要な雇用の受け皿となる。</li> <li>・ 販売区画がなくなった場合に備え、パークの今後の展開について調査を行う。</li> </ul>				
定量評価		項目	短期目標値	R 5 実績	達成率	中長期目標
		パーク内雇用者	225 名	254 名	112.8%	275 名
		企業立地区画への立地（累計）	6 区画	6 区画	100.0%	9 区画
定性評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 30 社弱が入居・立地する県内有数の I T 産業集積地に成長</li> <li>◎ 懸案だった企業立地区画への立地が近年大きく進展</li> <li>◎ センター研究室は継続的にほぼ満室状態で推移</li> <li>◎ 研究室入居から区画立地への展開事例が出現、拡張も視野</li> <li>○ 着実な事業拡大により、センター内で拡張する企業も出現</li> <li>○ パークの今後の展開に向けた 3 者打合せを R 4 年度から継続的に実施</li> <li>△ I T 関連以外（大学等と連携するものづくり、I C T を活用した医療・福祉、環境、農林水産など幅広い産業）の入居・立地が進んでいない</li> <li>△ 従業員増加企業が限定的（27 社中 10 社、37.0%）で入居企業が固定化</li> <li>△ 成長がみられる有望企業でも区画移転までに至らないものが複数あり</li> </ul>					総合評価
						◎

表中の記号：◎順調に進捗 ○一定程度進捗 △進捗遅れ又は課題あり

(3) 集積活用に係る進捗評価

大学発ベンチャーの入居や人材育成 NPO の誕生など、全体として一定の進捗が評価できる一方で、大学との連携協働については期待通りとは言い難い部分がある

		内容・状況				
目標	短期	技術開発力を備えた学生や高度技術者の育成に取り組み、入居企業の技術レベルや開発力の向上を促す。				
	中長期	産学官が連携した取組により、パークへのさらなる集積が図られ、ICT関連産業の拠点化を図る。				
定量評価	項目	短期目標値	R5実績	達成率	中長期目標	
	研究開発プロジェクト件数	5件	8件	160.0%	10件	
	人材育成連携事業	5件	18件	360.0%	10件	
定性評価	◎ 県立大学発ベンチャー企業2社が入居、今後の成長に期待 ◎ 大学や市が主催し、各種人材育成事業を継続的に実施 ○ 入居企業複数社が設立した人材育成事業を行うNPO法人が、県立大学・滝沢市と協定を締結し、今後事業拡大予定 ○ 大学との共同研究等に取り組む企業が毎年一定数あり ○ 人材確保窓口として拠点設置した企業の場合、目的が概ね満足できているものも一定数ある △ 共同研究の取組企業が限定的（27社中12社、44.4%） △ 連携による人材育成の取組企業が一定水準（27社中20社、74.1%） △ 入居・立地企業と連携する学部は、ソフトウェア情報学部に偏っている △ 入居・立地企業と大学との連携交流の仕掛けは増えつつあるものの、プロジェクト等への発展は限定的で、企業間連携も活発とは言い難い					総合評価
						○

表中の記号：◎順調に進捗 ○一定程度進捗 △進捗遅れ又は課題あり

(4) 役割と取組に係る実績評価

計画にある「チーム」は未形成だが、取組は一定の進捗があり、結果的に支障はない状況と評価できる。

パークに必要な機能の整備は、「貸し工房」に限定せず検討していくことが適当である。

		内容・状況		
全体	パーク運営協議会のメンバーにより集積形成及び集積活用のチームを形成し、目標の実現に向け、関係機関と連携しながら取組を推進する。			
集積形成チーム	パークの整備・運営を担う滝沢市が主導し取組を進める。 ① 入居促進 ② 貸し工房等の整備の検討			
集積活用チーム	研究開発や人材育成など入居企業と産学官連携に取り組む県立大学が主導し取組を進める。（①は滝沢市が主導） ① 産学官民との連携・交流 ② 産学案連携コーディネートによる研究開発プロジェクトの形成 ③ 人材の育成と確保等の支援			
実績評価	○ 明確にチームの形成は行われなかったものの、関係機関が連携して取組を推進し、一定の進捗に繋がった。 ○ 三者打合せにおいて、パークに必要な機能の検討を行った。		総合評価	
				○

表中の記号：◎順調に進捗 ○一定程度進捗 △進捗遅れ又は課題あり

(5) 長期目標の実現に向けて

長期目標に掲げる開発拠点化に向けて、関係機関が連携して取組を進めているが、目標達成に繋がる成果の発現にはまだ至っていない。

パークの拡張については、所期の目的を達成するための手段として、適切なタイミングで検討を行うことが適当である。

長期目標	本県産業の技術力や競争力を支えるICT開発拠点として確立し、本パークの拡張を検討する。
------	---

## 5 現状の総括と今後の課題

### (1) 現状の総括と今後の方向性

- ・ 整備計画策定から15年が経過した現在、パークは、約30社が入居・立地し約250人が就業する県内有数のIT産業集積地に成長した。
- ⇒ 集積の基盤を形成する初期のステージは概ね終了。
- ・ 集積活用の取組は一定の進捗があるものの限定的で、パークのメリット（県立大学に隣接し、市・大学・県の3者が連携して整備・運営）を必ずしも十分に生かせていない。
- ⇒ 現状は単なる企業団地の域を脱しておらず、パークの意義・性格が曖昧化しつつある。
- ・ これまでの取組の結果、地域産業や社会への効果波及など、所期の目的実現に繋がる成果の発現にはまだ至っていない。
- ⇒ 着実に成果を創出し目的の実現に繋げるため、整備計画策定当初の基本に立ち返り、今後を「連携協働強化と集積拡大」のステージと位置付け、取組を強化していく。

### (2) 強みと弱み

「連携協働強化」及び「集積拡大」の視点から、改めて強み・弱み分析を行った。

	強み、優れている点	弱み、劣っている点
連携協働強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県立大学の優れた教育研究ポテンシャル</li> <li>・ 市・大学・県等の連携体制で運営</li> <li>・ 県立大学の企業学群構想が始動</li> <li>・ 入居企業を中心に人材育成NPOが存在</li> <li>・ 有望な大学発ベンチャー企業が入居</li> <li>・ 県内の他の産業集積との協業可能性あり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 産学連携の取組が活発とは言い難い</li> <li>・ 代表的な強み技術や企業がない</li> <li>・ 大学以外の研究開発機能や技術支援機能等がない</li> <li>・ 交流を促進する空間や機能が弱い</li> <li>・ コーディネート体制の整備が不十分</li> <li>・ 県立大学関係者の雇用が限定的</li> </ul>
集積拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県立大学に隣接する優れた立地条件</li> <li>・ 県内有数のIT関連産業集積が形成済</li> <li>・ 成長発展のモデル企業が複数出現</li> <li>・ 県内他地域に競争力ある産業集積が存在</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ パーク内企業の新陳代謝が活発でない</li> <li>・ 企業ニーズと施設構成とのミスマッチ</li> <li>・ IT関連以外の企業の集積がほぼない</li> <li>・ 空室・空区画、駐車場スペースが不足</li> </ul>

### (3) 今後の課題

現状分析及び強み・弱み分析の結果を踏まえ、今後取り組むべき課題を整理した。

	課題	対応の視点
連携協働強化	産学連携・協働の一層の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県立大学企業学群構想との連動</li> <li>・ 産学連携・協働活発化を促す仕組みづくり</li> </ul>
	地域産業・社会への効果波及の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県内他産業との連携交流マッチング</li> <li>・ 県立大学卒業生の雇用拡大</li> </ul>
集積拡大	パークの新陳代謝の活発化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業成長に向けた支援の強化</li> <li>・ 新陳代謝を活発化させる仕組みづくり</li> </ul>
	多様な企業の入居・立地の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 魅力あるIT企業とのネットワーク強化</li> <li>・ IT産業以外の幅広い業種の誘致促進</li> </ul>
	さらなる発展に必要な機能の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ パーク拡張の検討</li> <li>・ 研究開発拠点機能強化策の検討</li> </ul>

## 6 新たな運営計画

### (1) 目指す姿

現状の評価及びパーク整備の経緯を踏まえ、改めて目指す姿を以下のとおり設定する。

#### 【目指す姿】

滝沢市 I P U イノベーションパークが、「岩手県立大学のポテンシャルを生かし、地域産業の開発力や競争力の向上を支える集積拠点」として確立している。

### (2) 計画期間

令和6年度から10年度までの5年間とする。

重大な計画変更の必要性が生じた場合は、上記に拘わらず適宜見直しを行う。

### (3) 取組の方向性と達成目標

#### ア 取組の方向性

##### ① 県立大学企業学群としての機能の確立

技術開発、事業開発、人材育成・確保など、入居・立地企業による県立大学との連携の取組を重点的に強化することを通じ、県立大学企業学群として機能し、大学のポテンシャルを最大限生かして地域課題の解決等に貢献する企業の集積拠点化を促進する。

##### ② 産学連携とITを軸とした幅広い企業の開発拠点化

パークの入居・立地対象は、県立大学との連携とITの活用等に取り組む企業で、ソフトウェアを中心とするIT産業、ものづくり産業、医療・福祉関連産業、環境関連産業、農林水産業など、幅広い業種に属する企業とし、今後は特にIT産業以外の入居・立地と、パーク内企業の成長発展を促進していく。

#### イ 達成目標

指標	現状 (2023年)	目標 (2028年)	目標値設定の考え方
A) 入居・立地企業と県立大学との連携件数	10件	100件 (5年間累計)	計画最終年度に研究開発又は人材育成連携30件(≒1社1件)
B) 就業者のうち県立大学関係者の割合	24.8% (過去3年間の平均値)	30%	全体の3割到達
C) 拡張移転企業数	1社	5社 (5年間累計)	拡張移転又は新規入居・立地 年1社

### (4) 推進戦略

#### ア 連携協働強化

- ① 企業学群関連事業と足並みを揃えた企業と大学の交流及び相互理解の促進
- ② 企業に産学連携や企業間連携の取組を促す仕組みの検討・構築
- ③ 継続的な産学連携や企業間連携の取組を促進する伴走支援の推進
- ④ 産学連携による成功モデルの創出促進
- ⑤ パーク内企業による県内他企業との連携協働、地域課題解決の取組等の推進
- ⑥ 地域の雇用受皿としての規模的維持と県立大学関係者の就業の促進

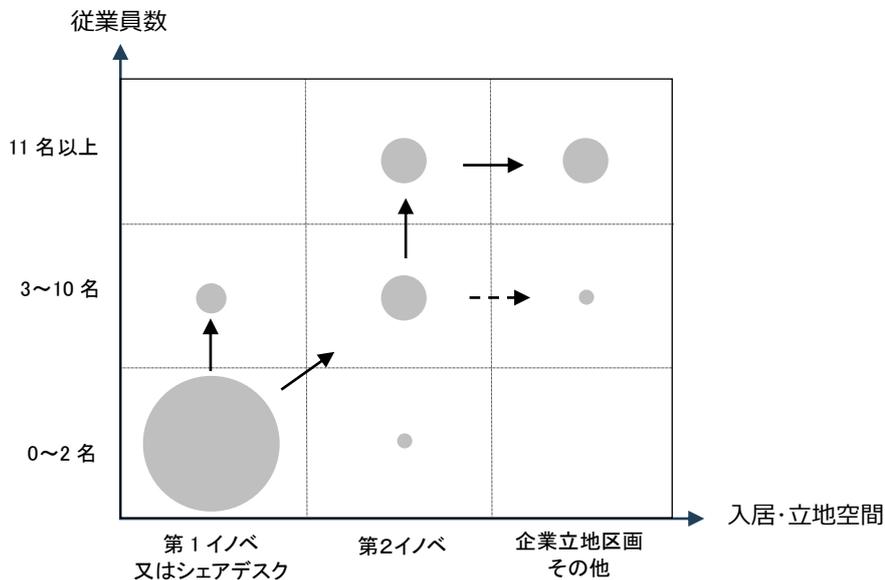
#### イ 集積拡大

- ① 有望企業の成長加速化を促す重点支援の実施
- ② パーク内企業の新陳代謝を活発化する仕組みの検討・構築
- ③ 将来の入居・立地に繋がる魅力あるIT企業とのネットワーク強化
- ④ IT産業以外の企業の入居・立地に繋がるマッチングや誘致活動の推進
- ⑤ パーク拡張及び研究開発拠点機能強化に向けた検討及び準備作業の推進

※ パーク拡張に関する考え方

<p><b>背景・必要性</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集積基盤の形成が順調に進捗した結果、現在、パークでは空室・空区画が少ない状態が継続し、今後、県外の魅力的な企業の立地、研究室入居企業の拡張移転、区画立地企業の拡張増築等のニーズが生じた場合、対応困難となる恐れが強い。</li> <li>パーク内企業の新陳代謝の停滞がその一因と考えられ、今後は、企業の成長加速化の支援及び新陳代謝を活性化させる仕組みの構築に取り組むこととしているが、当該取組による空室・空区画の創出効果はあくまで限定的と考えられる。</li> <li>IT産業以外の入居・立地が進んでおらず、今後その誘致に重点的に取り組むこととしているが、その受皿となる空室・空区画が少なく、現状ではその実現は実質的に困難となっている。</li> <li>県立大学企業学群としての機能を確立するための研究開発拠点機能の強化についても、今後検討すべきテーマである。</li> <li>ハード整備には数年単位の期間を要するため、所期の目的実現に資する中長期的視点から、パークの拡張について、現時点から検討及び準備作業を開始することが必要である。</li> </ul>
<p><b>拡張予定地</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パークに隣接する岩手県所有地など周辺の適地を候補地とし、滝沢市が取得・整備する方向で検討及び調整を進める。</li> </ul>
<p><b>スケジュール</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>用地取得及び市街化区域編入の実現に向けて必要な課題の解決を最優先とし、進捗を見極めながら柔軟に全体スケジュールを調整する。</li> <li>整備環境が整った段階で速やかに造成に着手する。</li> </ul>
<p><b>整備計画</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>拡張する土地の概要と利用計画、整備する機能、整備手法、スケジュール、役割分担等を定める整備計画を、令和6年度に別途策定する。</li> </ul>

※ 企業成長のイメージ



(5) 運営の推進主体と役割分担

ア 運営の推進主体

引き続き、滝沢市 I P U イノベーションパーク運営協議会構成員の所属機関が連携協力してパークの運営を推進する。

名称	滝沢市 I P U イノベーションパーク運営協議会	
設立	平成 23 年 2 月	
会長	岩手県立大学学長	
構成員	岩手県	商工労働観光部長
	滝沢市	市長
	岩手県立大学	学長
	いわて産業振興センター	理事長
	岩手県工業技術センター	理事長
	岩手ソフトウェアセンター	代表取締役専務

イ 推進戦略に係る各機関の主な役割分担

◎：主担当実施機関 ○：連携実施機関

No.	項目	県立大学	滝沢市	岩手県	産業振興センター	工業技術センター	ソフトウェアセンター
ア 連携協働強化	① 企業・大学の交流・理解促進	◎	◎	○			○
	② 産学・企業間連携を促す仕組み	◎	◎	○	○	○	○
	③ 産学・企業間連携の伴走支援	◎	◎	○	○	○	
	④ 代表的成果の創出促進	○	◎	○	○	○	
	⑤ 県内企業との連携協働等	○	○	◎	○	○	○
	⑥ 雇用受け皿、就業促進	◎	◎	○			
イ 集積拡大	① 成長加速化の重点支援	○	◎	○	○	○	
	② 新陳代謝活発化の仕組み	○	◎	○			
	③ IT 企業ネットワーク強化	○	◎	○			○
	④ IT 産業以外企業誘致	○	◎	○			
	⑤ 拡張・機能強化検討等	◎	◎	◎	○	○	○